



Z世代とモノ消費、コト消費

1996年～2015年生まれ、現在では7歳～26歳にあたる世代をZ世代と呼ぶ。Z世代は、デジタル世界が完成した世界に生まれ、SNSを通じて多様な価値観に触れている。Z世代の消費傾向は、所有に重きを置いて商品を購入する「モノ消費」に対して「コト消費」と呼ばれ、所有では得られない経験や体験に対して価値を見出している。これは、欲しいものはネットを通して簡単に手に入れることができ、モノを所有することに対する欲求が下がっているからである。

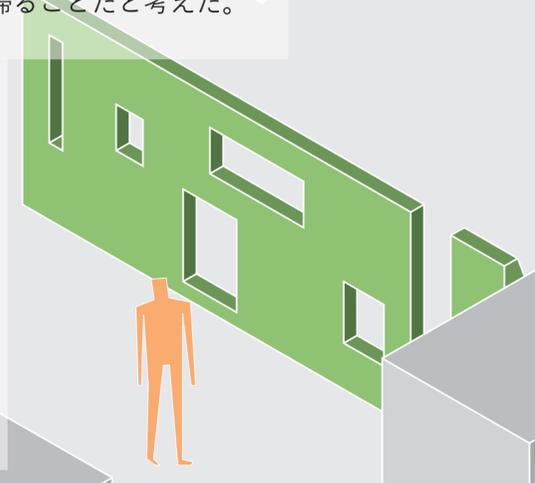
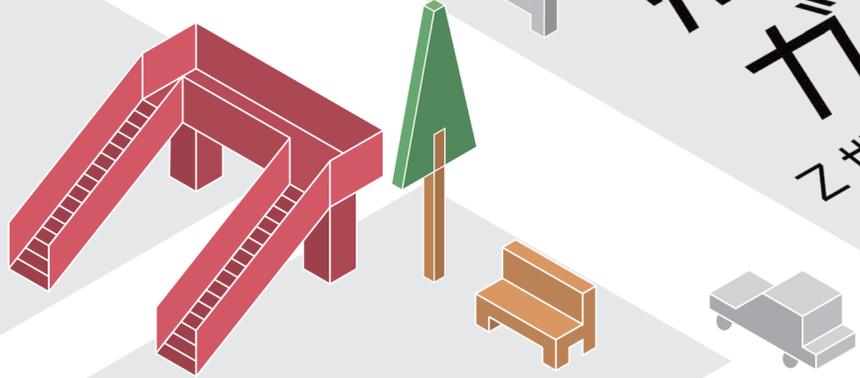
コト消費としての暮らし方

家を購入し、そこに何十年と住む。今まで当たり前だったこの暮らし方は、「モノ消費」である。テレワークが普及し、住む場所を選ばない生活が現れた。時代が変化していく中でZ世代が求める新しい「コト消費」としての暮らし方は、同じ家に帰るのではなく、異なる家に帰ることだと考えた。

帰る家
ガチャ
Z世代の新しい暮らし方

どこに帰るかわからない楽しさ

帰る家は毎日、ガチャガチャのようにランダムに選ばれる。帰るまでどんな家なのか、どんな場所なのかわからない。毎日新しい家との出会いがあり、街や人との出会いがある。何が出るかわからない、そのワクワクが新たな生活の豊かさを作り出していく。



福島・歩道橋の家

シェアハウス・4部屋

1. 福島

鉄道網が充実しており、梅田や大阪駅へのアクセスに優れている。飲食店が多く、利便性が高い。また、犯罪件数が低く、治安が良い。



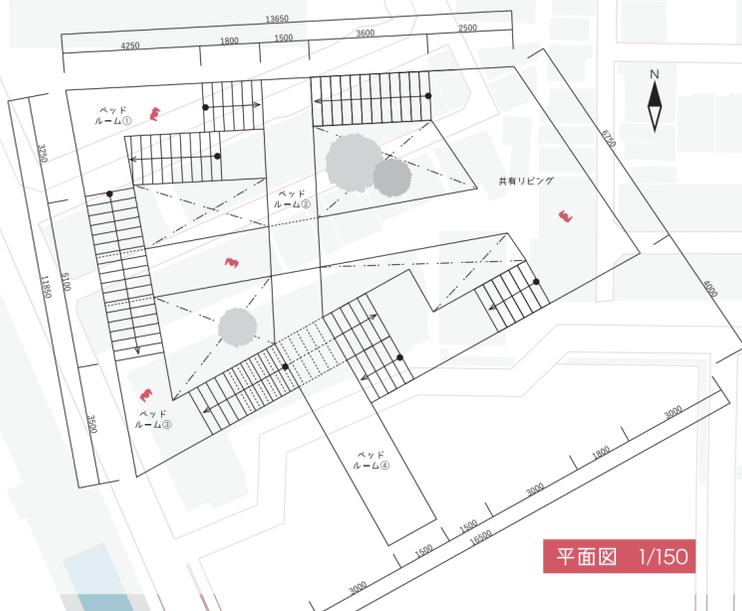
2. 敷地

福島4丁目の交差点にある大きな歩道橋の前にある台形の土地。車や人が多く行き交い、忙しく時間が流れる。



3. 歩道橋で寝る

既存の歩道橋の踊り場から家に入り、歩道橋の上で寝る。複雑に入り組んだ歩道橋の踊り場ごとに個室があり、4人がその日限りのシェアハウスを行う。



平面図 1/150



西九条・柱の家

タワーマンション・6部屋

1. 西九条

西九条駅は、ユニバーサル・スタジオジャパンへの乗換駅であり、休日は多くの人で賑わう。また、学校が多く、子供のためのイベントなどが行われる大阪市立こども文化センターが立地し、ファミリー層に人気の街。



2. 敷地

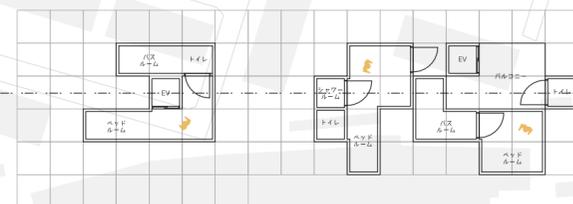
マンションの横にできた細長い土地。北港通を挟んだ北側には此花区の工場風景や、計画が進んでいる正蓮寺川公園が広がる。

3. 北港通の夜景

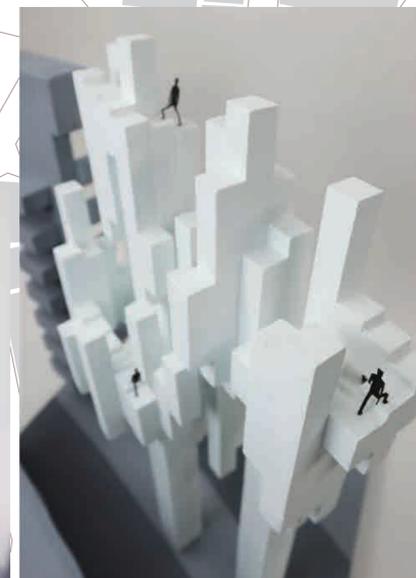
北港通は野田駅から此花大橋を結ぶ片側3車線の大きな道路。此花区が臨海工場地帯であるため、物資を運ぶトラックなどが昼夜を問わず多く利用する。夜にはこれらの車のライトが街を照らし、此花区の夜景を作り出す。各部屋を北港通より高くし、外階段を通して北港通の夜景を楽しみながら家に入る。

4. 柱に住む

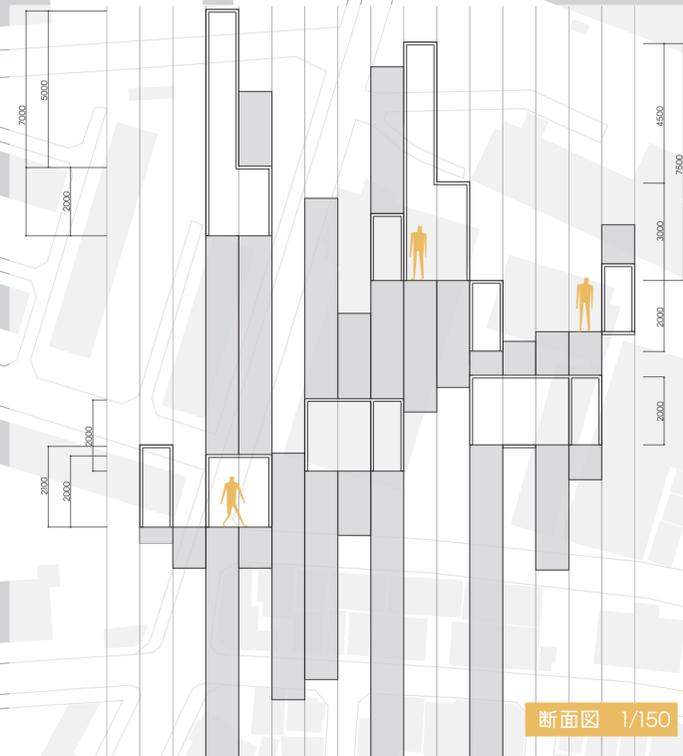
1m幅の高さの違う柱を組み合わせ、上を通れば階段に、並べれば空間に、工場のどっしりとした柱や複雑に入り組んだ配管を空間構成のモチーフとした。



平面図 1/150



断面図 1/150



芦原橋・壁の家



1. 芦原橋

太鼓の生産地として有名な芦原橋。駅周辺は閑静な住宅街で、難波に近いが家賃相場が安い、住みやすい地域として人気がある。

2. 敷地

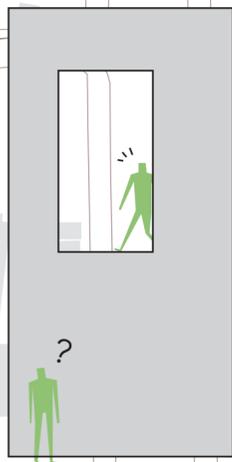
芦原橋駅のすぐ近く。マンションの駐車場から余った2つの三角形が縦に並ぶ特徴的な土地。東側は府道41号線が走り、車通りが多いが、西側には静かな公園がある。

3. ハリボテの壁

敷地の細長さを活かして、まるで大きなハリボテの壁が1枚立っているような特徴的な外観に。

4. マジックショー

西側から壁を見ると、高いところに大きく開いた窓の向こうには空が見える。人も見える。どうやってそんなところに!? その秘密は壁の裏側。



天王寺・道の家



1. 天王寺

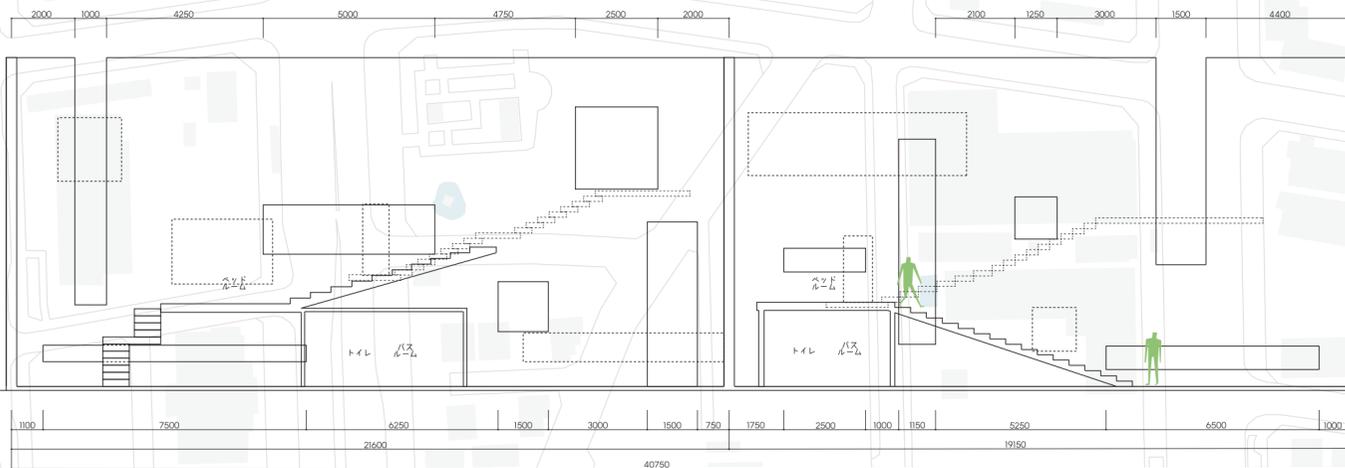
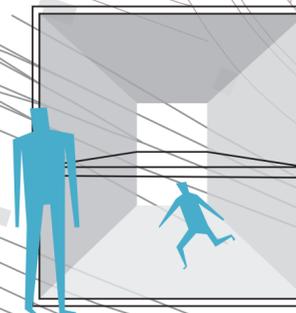
大阪屈指の商業地域。駅周辺には大きなショッピングモールや飲食店が並ぶ。広大な緑地スペースなどがあり、暮らしやすいということで家族連れにも人気。

2. 敷地

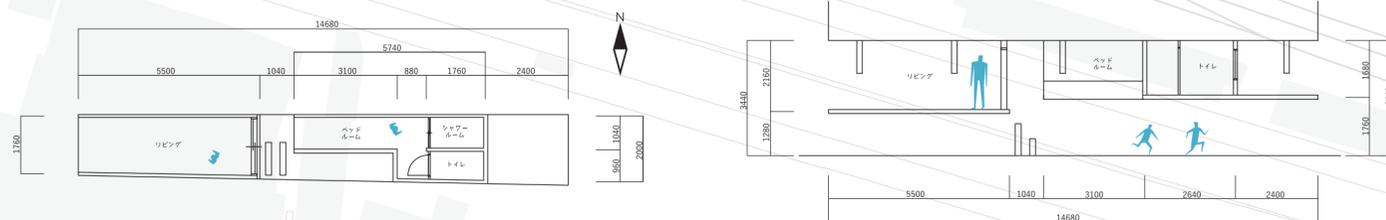
天王寺バイパスの下、幅2m以下の通り抜けができる道。街灯は少なく昼間でも暗い。

3. 高さ1280の道

地面から1280のところの家の床を設ける。この高さは、大人なら屈まないと通れない。この低い道は子供専用。日中は家の床下通り、道として機能する。夜は帰ってきた大人が屈みながら家に入る。



平面図 1/150



平面図 1/150

断面図 1/150

